

和歌山県日高郡美浜町

カナダミュージアムにおけるミュージアム機能の強化



【地域の基礎データ】

人 口：21,841 人（令和元年 12 月末現在）

高齢化率：35.1%（平成 31 年 1 月 1 日現在）

産 業：漁業、農業 など

【活動の基本情報】

参加学生数：12 名（1 回生：5 名、2 回生：1 名、3 回生：6 名）

活 動 期 間：令和元年 7 月

担 当 教 員：東悦子

1. 活動実施の経緯

LIP 美浜町は、2018 年 7 月に日高郡美浜町三尾にオープンしたカナダミュージアムの機能強化を目的とした活動であった。カナダミュージアムは、明治期より多くのカナダ移民を送出した三尾地区の歴史を伝えるミュージアムである。2019 年度受託研究（カナダミュージアム（機能強化））を受け、7 月に LIP 美浜町として募集を行い、3 年生から 1 年生で構成される学生たちが協働しつつ活動を行った。

2. 活動の内容

美浜町やその地の移民の歴史についての基礎知識を得るために文献の輪読と発表を行うことから開始した。また現地視察や移民をテーマとする他県のミュージアムの視察も行った。学生達は定期的にミーティングを開催し、機能強化のための具体的な案を提出し合い、検討の結果、来館者が楽しみながら展示への興味を喚起するためのミュージアムクイズの作成に取り組んだ。（1）クイズの素材集めを行い、内容について関係者の意見を伺い、内容を改善。（2）クイズの提示方法を考え、関係者と意見交換を行い、3 つの提示方法で進めることを決定。（パワーポイントによる提示。QR コードによる提示。三択クイズで絵合わせをする方法。）（3）グループに分かれ、3 つの提示方法の作業を進める。（4）概ね完成後、ミュージアムにて「クイズ大会（お試し会）」を行う。（5）参加者のフィードバックを受け、クイズの最終版を作成。

3. 活動を通じて

上回生がリーダーシップを発揮し全員が協働しつつも各自がそれぞれの役割を果たした。機能強化のアイデアを形として完成する過程において、学生が得た経験は今後活かされるものであり、全国有数の移民県である和歌山に関する理解も深まったと考えられる。

4. 成果物など

美浜町 LIP

【紹介】

和歌山県は、全国で6番目に多くの海外移住者を送り出しました。その中でも、和歌山県美浜町の三尾地区は通称“アメリカ村”と呼ばれ、カナダへ多くの移民を送り出した地域です。

私たちは、カナダミュージアムの機能強化を目標として取り組んできました。

【カナダミュージアムについて】



カナダミュージアム

美浜町の移民の歴史と文化を後世に伝える施設で、水色の外壁がシンボルです。和洋折衷の家屋で洋室と和室の両方があります。当時の人々がカナダに行く際に実際に使っていたスーツケースやパスポートなど貴重な品々が展示されています。館長の丁寧な説明を聞きながら、見学を楽しむことが出来ます。また、併設されているカフェではコーヒーやケーキなどを味わえます。

【これまでの活動内容】

■フィールドワーク

○カナダミュージアム及びアメリカ村の視察

カナダミュージアムの館長と美浜町役場の職員と現状の確認を行いました。クイズ作成(その他の活動参照)後、クイズ大会のデモンストレーションを行い確認しました。

○神戸視察

○横浜視察

■その他の活動

○会議

毎週1回、各グループの進捗報告や今後の活動方法などを決定するために会議を行います。

○クイズ作り

機能強化のひとつとして、アメリカ村やカナダミュージアム、カナダの知識を広く知ってもらえるようにクイズを作成しています。パネル版、QRコード版、パズル版、英語版など様々な層の方に対応できるよう複数種用意しています。

○イベント案作成

現在、季節に応じたイベントの考案に取り組んでいます。



視察の様子



会議の様子

【今後の展望】

横浜視察では、同分野を扱う博物館としては、国内最大規模の海外移住資料館を訪れ、学芸員より企画展についての指南を頂きました。ここに学んだことから、企画展をはじめとして、イベント、体験型展示を、実装する予定です。また、三尾に住む方々でも大半の方々がカナダミュージアムを知らないということから、知名度を向上させることを今後の課題としています。